

千葉特別支援学校の実践について

千葉特別支援学校並びに楨の実特別支援学校の実践は、本年度よりスタートした特別支援学校を拠点とした障害者スポーツ振興事業の拠点校として、研究に取り組んでいただいた内容です。2020東京オリンピック・パラリンピックを契機として、特別支援学校の児童生徒に障害者スポーツの推進を図るとともに、スポーツを介して地域との交流を深め、互いの理解を図っていくという趣旨で取り組んでいただきました。

まずは、県立千葉特別支援学校の実践についてです。

中学部、高等部のプール開きに招いた、パラ水泳アスリートの模範泳法を見学したり、交流学習や校内のパラリンピックロードの取組で、様々な障害者スポーツ種目を知ったりするなど、本校の児童生徒が様々な障害者スポーツを学び、楽しめる良い機会を得ることができたことは、大変うれしい実践です。

あわせて、パラ陸上やボッチャの選手と一緒に学ぶ学習活動では、自治会や地域の小・中学校、高等学校の児童生徒と走り方やTスロー、ボッチャによる交流学習を実施し、今後の相互理解の促進と特別支援学校を拠点とした障害者スポーツの振興を進めていくのに参考となる成果を得ることができました。

また、本校では、千葉県特別支援学校体育連盟主幹校として、特別支援学校スポーツ大会での生徒へのアスリートを招聘した実技指導の実施や、県内教職員対象のトップアスリートによるシッティングバレーボールの講習会を開催し、教職員が研修した内容を児童生徒の学習活動に生かす方向性も見えてきました。今後も主管校としての更なる取組の充実を期待しています。